

北海道新聞

平岸の歴史を訪ねて

縄文・古代史編

第15回・縄文時代の平岸⑤くまとめ

平岸の縄文遺跡からは縄文時代を通じて、早期から晩期まで多くの出土品が見つかります。札幌市内でこのように長期にわたって遺跡が見つかる例はなく、当時の平岸は縄文人にとって暮らしやすい環境であり、かつその環境が数千年にわたって維持されていたと考えられます。なぜ、平岸は暮らしやすかったのでしょうか？その秘密を解くカギが、自然環境にあります。第8回の連載で触れたように、昭和の中期まで澄川から平岸高台の麓に沿って流れる小川(小泉川)がありました(図1)。



図1. 小泉川流路・湧き水跡(①～⑨)・縄文遺跡(★)

また、小泉川に沿った高台の崖からはいたるところでこんこんと湧き水が湧いていました。平岸坊主山遺跡も東山遺跡も小泉川沿いの高台側に位置しており、天神山遺跡も精進川に沿った場所に位置しています。小川は飲み水や煮炊きを使う水を利用するのに使いました。また、真冬に川が凍ったり、日照りが続き川が干上がることがあっても湧き水からは一年を通じて安定して水を手に入れることができます。さらには、飲み水を手に入れる以上に川は貴重なタンパク源を供給する食料庫でもありました。昭和の初めまでは、このあたりの川にはヤマベ、ウグイをはじめ幻の魚といわれたイトウもあり、秋にはサケが川を埋め尽くすように遡上していました。鮭は水温に敏感で、その産卵場所は湧き水がわきあがり、常に一定の水温に保たれる場所に限られています。石狩市の紅葉山砂丘で見つかった縄文遺跡からはサケ漁に使用した漁具(柵)が大量に見つかっており、平岸でもこのような漁が行われていたと考えられています。

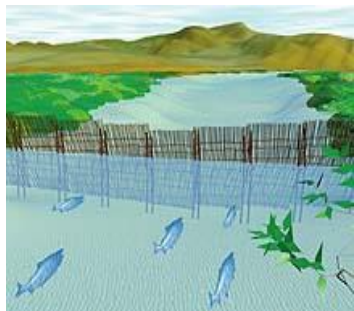


図2. 紅葉山遺跡で見つかったサケ漁に使われた柵(上)とその復元予想図(下)(石狩市ホームページより引用)

また、平岸の縄文遺跡からは漁に使われたおもり(石錘)や貝殻で模様をつけた土器(貝殻文土器)が見つかっており、川漁だけでなく、海漁もさかんに行われていたようです。当時の海岸線は縄文海進により丘珠空港のあたりまで入り込んでいましたが、海までの交通路として小泉川や精進川を利用していたと考えられます。縄文人は進んだ海洋技術を持っており、日本海を丸木舟を使って行き来し、様々な交易品を運搬していました。平岸の縄文人も丸木舟を使い、海まで移動していたのではないのでしょうか。

札幌市内の縄文遺跡の分布をみると、豊平川の周辺やその氾濫原となる中央区のあたりには遺跡はほとんどなく、比較的小さな川沿いの台地に多くあります。これは、洪水のリスクを避けたためと考えられます。また、高台には狩猟の際、いち早く獲物を発見できるという利点もあります。平岸の縄文遺跡からは狩猟につかわれた矢じりや石槍が多数出土しており、天神山遺跡では落とし穴も見つかっています。これらのことから平岸は狩猟に適した場所だったことがわかります。余談ですが、昭和43年にHTBが開局する際、現在地が選ばれた理由のひとつに、周囲に高層ビルが無く、高台となっていて電波の通りがよいことが挙げられたそうです。獲物をとるために使っていた高台が数千年の時を経て、テレビの電波の発信地になったことは、人間の営みが自然環境の制約からは逃れられないことを意味しているのでしょうか。それはさておき、平岸は漁労・狩猟に適しており、洪水などの災害のリスクも少なくかつ安定的に飲み水を手に入れられるという縄文人が生活するのに絶好の場所だったことがわかります。

謝辞：本稿の執筆にあたり札幌市埋蔵文化財センター藤井誠二氏には多くの有益な助言をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

参考資料 さっぽろ文庫90、「古代に遊ぶ」、さっぽろ文庫編集室(1999)
 バックナンバーお届けいたします。ご希望の方は販売所までお気軽にご連絡ください。ご自宅までお届けいたします。

【編集後記】

「社長」の思い

毎月中旬の道新夕刊に六花亭の小田豊社長による「亭主の思い」という意見広告が連載されているのをご存知でしょうか。私事ながら、六花亭は筆者の前職にあたり、短いながらも社長の間近で仕事ができることが今の自分に多きな影響を与えています。社長は「正しきによりて減じる店あらば減びてもよし、断じて減びず」という言葉が好きで、信念を持って行動し、目先の売り上げに惑わされるなどいうことを繰り返して述べていました。私どもも、新規の読者獲得ばかりに目を向けるのではなく、日ごろから購読していただいているお客さまに地域の情報発信という活動でお返しできればと思います。

執筆者：道新永田販売所営業主任 伴野卓磨

1977年室蘭市生まれ。金沢大学理学部地球
 学科博士課程(古生物学専攻)を修了後、六花亭
 に入社。2011年より現職。

◇発行元◇

(有)北海道新聞永田販売所

〒062-0936

札幌市豊平区平岸6条13丁目7-18

TEL: 0120-128-348

TEL: 0120-128-358

◆この連載は毎月1日・15日の北海道新聞朝刊に折り込みしています